2020年酸性雨国際会議(ACID RAIN 2020)

募金趣意書

2020年酸性雨国際会議（ACID RAIN 2020）及び関連会合組織委員会

2020年酸性雨国際会議（ACID RAIN 2020）

酸性雨国際会議は1975年から5年ごとに開催されてきた酸性雨とその影響に関する科学者会合であり、本会合は第10回目となり、正式名称は10th International Conference on Acid Deposition, ACID RAIN 2020: The Future Environment and Role of Multiple Air Pollutantsである。わが国では2000年に第6回大会がつくば市で開催されて以来20年ぶりの開催であり、本会合では、従来の狭義の酸性雨の枠に捉われず、$PM_{2.5}$やオゾン等の今日的な大気汚染とその影響を含む会合として開催する予定である。

なお、2020年はわが国が主導した大気環境に関する地域の国際的な枠組みである「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）」の本格稼働20年目にあたることから、酸性雨を含む大気汚染問題に関する議論が活発になることが期待され、ACID RAIN 2020に併せて、大気沈着・大気汚染のモニタリングネットワークによる科学的成果に関する地域間ワークショップ、アジアコベネフィット・パートナーシップ（ACP）会合、アジア太平洋クリーン・エア・パートナーシップ（APCAP）第３回合同フォーラム、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET） 第22回政府間会合、EANET 第4定期報告書編集委員会、及び市民向けシンポジウム（一般に公開）も同じ会場(朱鷺メッセ)、同じ週で開催する予定であり、この週を「アジアクリーンエアーウィーク」として実施する。

2020年酸性雨国際会議（ACID RAIN 2020）及び関連会合組織委員会
委員長　　畠山　史郎

2020年酸性雨国際会議(ACID RAIN 2020)の概要

１．　会議の名称とテーマ

１）　会議の名称

2020年酸性雨国際会議（ACID RAIN 2020）

２）　会議のテーマ

The Future Environment and Role of Multiple Air Pollutants

（未来の環境と多様な大気汚染物質の役割）

２．　主催･併催機関などの名称

１）　主催・実施主体

2020年酸性雨国際会議（ACID RAIN 2020）及び関連会合組織委員会

2020年酸性雨国際会議科学運営委員会

2020年酸性雨国際会議国際科学諮問委員会

２）　共催・後援

共催:国際森林研究機関連合（IUFRO）、大気環境学会、日本陸水学会、生物地球化学研究会、日本土壌肥料学会

後援:日本生態学会、日本地球化学会、日本地球惑星科学連合（JpGU）、日本森林学会、森林立地学会、水文・水資源学会、日本水環境学会

３）　協力

独立行政法人国際観光振興機構

３．　開催期間

2020年10月20日（火）- 10月23日（金）　（本会議4日間）

４．　開催場所

新潟県新潟市（朱鷺メッセ）

〒950-0078　新潟県新潟市中央区万代島6番1号

電話　　025-246-8400

ファックス　　025-246-8411

５．　主催責任者

2020年酸性雨国際会議（ACID RAIN 2020）及び関連会合組織委員会

委員長　　畠山　史郎

（一般財団法人日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター所長）

事務局　　〒950-214　新潟県新潟市西区曽和1182

一般財団法人日本環境衛生センター

アジア大気汚染研究センター企画研修部内

山下　研（事務局長）、森住　昭仁

電話：025-263-0556　ファックス：025-263-0567

E-mail: kyamashita@acap.asia, morizumi@acap.asia

６． 日本開催の経緯

酸性雨国際会議（International Conference on Acid Deposition: Acid Rain）は 1975 年から 5 年ごとに開催され、わが国では、2000 年に第 6 回大会がつくばで開催されて以来 20 年ぶりの開催となる。酸性雨国際会議は、特定の国際的組織の主催によるものではなく、歴史的に、当該開催地の研究者からその次の開催地の研究者へとそのバトンが受け渡されてきた。これまでの酸性雨国際会議の概要を表 1 に示す。

2020 年の日本開催にあたっては、現在も大気汚染物質の排出量が比較的多いアジア地域で開催することが提案され、2020 年は大気汚染問題の国際的な地域枠組みである東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）の本格稼働 20 年目にあたり、記念イベントを併催する良い機会ともなり得ることから、EANET のネットワークセンターであるアジア大気汚染研究センター(ACAP)が中心となり新潟市で開催すること、また、従来の狭義の酸性雨の枠に捉われず、$PM_{2.5}$ やオゾン等の今日的な大気汚染とその影響を含む会合とすることとなった。

その後、我が国の関連分野の主要な研究者 45 名による科学運営委員会（Scientific Steering Committee, SSC）が 2018 年 4 月に正式発足し、共同議長として京都大学の大手信人博士、ACAP の佐瀬裕之博士、及び北海道大学の柴田英昭博士を選出した。また、国際的に活躍する研究者 36 名からなる国際科学諮問委員会（International Scientific Advisory Board, ISAB）を 2018 年に組織した。現在までに、SSC と ISAB の協働で、開催日程、会場、関連学会・団体からの共催・後援の取り付け、セッショントピック、招待講演者の選出等を行ってきたところである。また、2019 年 1 月には、事務局を務める ACAP 所長を委員長とする組織委員会が発足し、新潟県、新潟市、新潟大学等の地元機関の代表や SSC 共同議長も参画し、本会議及び関連会合の円滑な運営をすべく準備を進めている。

表 1. これまでの酸性雨国際会議の概要

開催年	正式会合名	開催地	参加者数 (発表数)
2020	*10th International Conference on Acid Deposition: The Future Environment and Role of Multiple Air Pollutants（本会合）*	*Niigata, Japan*	*300-400* *（予定）*
2015	9th International Conference on Acid Deposition: ACID RAIN 2015	Rochester, USA	330 (292)
2011	8th International Conference on Acid Deposition: ACID RAIN 2011	Beijing, China	350 (293)
2005	7th International Conference on Acid Deposition: ACID RAIN 2005	Prague, Czech Republic	> 600 (584)
2000	6th International Conference on Acidic Deposition: Acid rain 2000	Tsukuba, Japan	700 (573/574)
1995	5th International Conference on Acidic Deposition: Acid Reign ‘95?	Göteborg, Sweden	950 (750/774)
1990	4th International Conference on Acidic Deposition: its nature and Impacts	Glasgow, Scotland, UK	1250 (640)

開催年	正式会合名	開催地	参加者数 (発表数)
1985	(3rd) International Symposium on Acidic Precipitation	Muskoka, Ontario, Canada	700 (400)
1980	(2nd) International Conference on the Ecological Impact of Acid Precipitation	Sandefjord, Norway	300 (200)
1975	1st International Symposium on Acid Precipitation and the Forest Ecosystem	Columbus, Ohio, USA	300 (85)

佐竹研一（1998，環境技術）；玉置元則（2001，環境技術）；村野健太郎（2005，環境技術）；ACID RAIN 2015 Homepage 等を参考に作成。発表数等については諸説あり。

１）　日本開催の目的と意義

「酸性雨」という言葉は、1990 年代に地球環境問題として大きくクローズアップされてきたが、本来的には大気汚染の一つの事象として捉えることが重要である。「酸性雨」の科学では、「排出・輸送・生成された酸性物質・関連物質の大気からの沈着により生じる生態系での化学的・生物学的事象」を各プロセスにおいて評価してきた。「酸性雨」という言葉自体は、現在では時代遅れ的なイメージもあるが、「大気汚染とその沈着・暴露による影響」は普遍的テーマであると言える。そのため、すでに、硫黄酸化物や窒素酸化物の排出量が十分に削減された欧米においても、「大気汚染とその沈着・暴露による影響」に関するモニタリングや研究は現在でも盛んである。本国際会議は、上記の酸性雨の科学の考え方を活かしながら、より広い視野を持ち、大気汚染物質の「排出」・「輸送」・「生成」から、これらの「沈着・暴露」による「（生物地球化学的）循環・（生物学的・社会学的・経済学的）影響・評価」に至る、上流から下流までの一連のプロセスを議論する格好の機会となることが期待される。

我が国を含むアジアの大気環境に目を転じてみると、中国における硫黄酸化物の排出量は 2006 年をピークに、窒素酸化物は 2011 年頃をピークに徐々に低下しているとされているが、アジアにおける排出レベルはまだ高い。また、PM やオゾンなどの新たな課題が顕在化・多様化しつつある。現在、大きく大気環境が変動しつつあるアジアにおいて、本国際会議を開催することは、我が国や周辺諸国における関連研究の発展に大きく寄与するものと考えられる。また、我が国がイニシアティブをとって進めてきた、大気汚染の地域枠組みである「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）」が、2020 年に本格稼働 20 年目を迎えることから、EANET 活動の科学的成果を広くアピールする良い機会でもあり、関連会合も含めて、東アジアの大気汚染改善に関する議論が活発になることが期待できる。

２）　開催計画の概要

(ア) 会議日程

月日	時間帯	会合名
10 月 20 日（火）	午後	2020 年酸性雨国際会議(ACID RAIN 2020)並びに展示会
10 月 21 日（水）	終日	2020 年酸性雨国際会議(ACID RAIN 2020)並びに展示会
10 月 22 日（木）	終日	2020 年酸性雨国際会議(ACID RAIN 2020)並びに展示会
	夕方	ACID RAIN 2020 レセプションパーティー
10 月 23 日（金）	終日	2020 年酸性雨国際会議(ACID RAIN 2020)
	午前	ACID RAIN 2020 展示会

（イ）主要トピックス

セッショントピック（実際のセッションは要旨の提出状況によって再編成する）：

T1　モニタリング・モデリングによる排出とその評価
T2　長距離輸送とモデリング
T3　アジアにおける多様な汚染物質による都市と地域の大気汚染
T4　湿性・乾性・オカルト沈着
T5　大気汚染物質の沈着とそれらの毒性
T6　大気沈着と多様な汚染物質の陸域生態系への影響（多様性、生態系機能、生理、微生物等を含む）
T7　大気沈着と多様な汚染物質の水界生態系への影響（多様性、生態系機能、生理、微生物等を含む）
T8　地表水化学性の現状とトレンド
T9　酸性化と回復の長期トレンド
T10 プラネタリーバウンダリーに埋め込まれた大気反応性窒素
T11 生態系における酸性化からの回復と変化する硫黄動態
T12 生態系における生物地球化学的循環と酸性化との関連性
T13 酸性化と微量元素
T14 酸性沈着の都市生態系への影響
T15 酸性沈着の炭素循環への影響
T16 大気汚染影響に対応した生態系管理と復元
T17 酸性雨における環境同位体
T18 大気汚染物質の気候変動への影響
T19 気候変動の鉱物風化と臨界負荷量への影響（生態系内の化学的・生物学的過程を含む）
T20 臨界負荷量マッピングとダイナミックモデリング
T21 酸性化からの回復とそのモデリング
T22 環境中での多様な汚染物質と元素間のつながり
T23 大気汚染と物質や文化財への影響
T24 欧州、米国及びアジアにおける統合評価モデルの進展と応用
T25 大気清浄化政策とその人の健康影響に向けて
T26 地域越境大気汚染ガバナンスの進展？

招待講演者（キーノートスピーカー）の主要テーマ：

- オゾンの植物影響：インド
- 統合評価モデル：オーストリア
- 生物地球化学：米国
- 大気エアロゾル：米国
- 窒素循環：日本
- 大気汚染・気候変動の植物・土壌・微生物への影響：中国
- 大気汚染モデルと管理政策：中国

（ウ）参加予定者　340 名程度

（エ）参加予定国　31 ヶ国・地域
日本、オーストリア、ベルギー、カナダ、カンボジア、中国、チェコ、デンマーク、フランス、ドイツ、英国、インド、インドネシア、イタリア、ラオス、リトアニア、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ノルウェー、フィリピン、ポルトガル、韓国、ロシア、

スペイン、スウェーデン、スイス、台湾、タイ、米国、ヴェトナム（日本を除きアルファベット順）

（オ）会議使用言語
英語

7. 寄附金を必要とする理由

2020 年酸性雨国際会議（ACID RAIN 2020）はわが国の大気環境科学及び環境保全対策の活性化に大きく寄与するものであります。2020 年酸性雨国際会議（ACID RAIN 2020）及び関連会合は延べ 340 名程度の参加が見込まれ、準備運営等に関する総経費は 34,930,000 円が見込まれています。これらの諸経費は、本来参加登録費等でまかなうことが建て前でありますが、登録料を低額に抑えたいとの事由により総額 34,930,000 円から、参加費等自己負担額 22,500,000 円、展示会費等 5,500,000 円、補助金/助成金等 200,000 円、を除く不足額、6,730,000 円を諸企業及び諸団体からのご援助に頼らざるを得ないのが現状です。従いまして、下記の費用を会議に協賛する関係企業等からの寄附金にて充当したいと存じます。

8. 収支予算（案）

単位：千円

収支区分	金　額
（収　入）	
1. 自己負担金（参加登録費等）	22,500
2. 諸収入等（展示会等）	5,500
3. 補助金／助成金等	200
4. 寄附金等	6,730
収入合計	34,930
（支　出）	
1. 会議準備費	6,873
2. 会議運営費	15,529
3. 展示会等	9,097
4. 募金経費	2,748
5. 事後処理費	683
支出合計	34,930

9. 寄附金募集要項

（１） 募金の名称
2020 年酸性雨国際会議（ACID RAIN 2020）及び関連会合寄附金

（２） 募金の目標額
6,730,000 円（総額 34,930,000 円の内）

（３） 募金期間
2019 年 10 月 7 日～2020 年 10 月 19 日
（注：会議開催日前の銀行営業日まで）

（４） 寄附金の使途

2020年酸性雨国際会議（ACID RAIN 2020）の準備並びに運営に関する費用に充当します。

（５） 寄附金申込先

独立行政法人国際観光振興機構MICEプロモーション部交付金担当
〒160-0004　東京都新宿区四谷1-6-1 YOTSUYA TOWER 10階
電話：03-5369-6015　ファックス：03-3350-3650
email:cvnews@jnto.go.jp

（６） 寄附金振込方法

別紙申込書を国際観光振興機構にお送りください。
寄附金申込書を受領し確認次第、国際観光振興機構より寄附金申込受理書を送付いたします。寄附金申込書受理書の受領後、指定口座番号にお振込ください。

（７） 税法上の扱い

この寄附金は、特定公益増進法人である独立行政法人国際観光振興機構への寄附金として、税法上の一般寄附金とは別途に損金算入等の優遇措置が講ぜられます。